

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「チャンス・チャレンジ・チェンジ」をキーワードとして、生徒全員が就労を通じた社会的自立をし、生き生きと暮らしていける人材を育成する学校をめざす。
 ☆「チャンス」＝人との出会いを大事にするとともに、本校の教育活動や生徒の良さを広く発信する。
 ☆「チャレンジ」＝自己達成感を高められるように生徒の個別の実態に応じた支援を行いつつ、未経験の課題に対して挑戦する力をつけるよう支援する。
 ☆「チェンジ」＝互いの違い・よさを認め合う仲間づくりにより自己肯定感を高め、めざすべき自分・目標を見つけて社会へ巣立つことができるよう支援する。

2 中期的目標

1 生徒本人を中心に据えた「支援と指導・相談」体制の整備と、安全安心で活力あふれる学校づくり

- (1) チームによる生徒の実態把握と効果的な支援の実施により、生徒の成長につなげる。
 ※生徒向け学校教育自己診断「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」R6：93%（R1：68%、R2：84%、R3：78%）
- (2) 支援方法を工夫し、生徒の挑戦する意欲や自己肯定感、達成感を向上させる。
- (3) 生徒が相談しやすい環境を整備し、生徒個々のニーズに応じた相談体制を構築する。
 ※生徒向け「相談できる先生がいる」R6：96%（R1：73%、R2：87%、R3：84%）
- (4) 教職員が情報共有し、連携して生徒の安全・安心を常にしっかり守れる体制を構築する。
- (5) 偏見や差別を許さない、人権が尊重された教育を推進する。

2 就労を通じた社会的自立をめざす「生きる力」の育成

- (1) タブレット端末などのICT機器の活用などにより、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくりをする。
 ※教職員向け「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」R6：100%（R1新規：87%、R2：96%、R3：100%）
- (2) 「MURANO キャリアプラン」に基づき、社会に開かれた教育課程、教科がつながるシラバスを推進する。
- (3) 教科ごと個別の指導計画の「目標・手立て・評価」を作成するシステムを構築する。
- (4) 教員のキャリア教育・就労支援に関する実践力を強化し、生徒の企業就労を支援する。
- (5) 実習先・雇用先を新規開拓・確保により、マッチング機会の充実し、就労率・定着率を向上する。
 ※「卒業1年後の職場定着率」R6：100%（R1：92%、R2：92%、R3：94%）

3 魅力ある取組みの充実による共生社会づくりへの参画と情報発信

- (1) 共生推進教室設置校を含む、学校園に対して、本校の教育実践を広める。
- (2) 地域等との交流・連携を深め、生徒が活躍できる機会を創出する。
 学校経営推進費（R3「むらの『Smile & Music』プロジェクト」～地域に貢献し、地域に指示されるMURANO キャリア教育プランの具現化に向けて～）を活用して、音楽活動を通じた自己表現力や、自己肯定感の向上をめざす。
 ・シロフォン（木琴）（30.6万円）、ピブラフォン（鉄琴）（23.6万円）、高床式砂栽培設備（143万円）、電気陶芸窯（31万円）等、計334.8万円
 ※生徒向けアンケート：R6「自己肯定感」、「達成感」、「就労意識」などの項目が、それぞれ80%以上（Smile & Musicプロジェクトのアンケート）
 ※生徒向け「本校には達成感を味わうことができる活動がある」R6：95%（R3新規：91%）
 ※校内演奏会 R6：1回以上、校外演奏会 R6：1回以上、活動報告 R6：年に5回以上発信
- (3) 積極的な広報を行い、本校の取組みと魅力を鮮明に伝える。

4 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上

- (1) 初任者や経験年数の少ない教職員の育成を進めるとともに、支援教育の専門性を高める。
 ※「授業担当教諭の特別支援学校教諭免許保有率」R6：75%（R1：50%、R2：55%、R3：61%）
 ※教職員向け「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」R6：75%（R2新規：47%、R3：63%）
- (2) 研修や学校視察の成果を校内で伝達、実践する。
- (3) 業務の精選と働き方改革に取り組み、教職員の心身の健康の維持を推進するとともに、同僚性の高い職場づくりをする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><全般></p> <p>・昨年度、保護者からの回収率が低下したため、アンケートフォームでの回答後に「回答済連絡票」を提出していただき、未提出者には再周知をした。また、操作手順プリントを配布して、回答方法を図解した。さらに、回答状況（学年ごとの回答数）を把握するために、ランダムに固有のQRコードを割り振って確認した。これらの結果、回収率は昨年度から約22ポイント上昇し、93%となった。</p> <p><結果と考察></p> <p>前年度より肯定率が10ポイント以上上昇した項目を「増」、下降した項目を「減」とカウントした。</p> <p>【本校生徒】</p> <p>・「増」：0、「減」：0</p> <p>・全体的に肯定率は高い。日常的な取組みの成果が表れていると考える。来年度以降もこの水準を維持しつつ、肯定率が下位の項目を中心に、取組みを続けたい。</p> <p>・No.10「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」：生徒への周知方法をさらに工夫し、目標を生徒と確実に共有するようにしたい。</p> <p>・No.7「いじめ」やNo.5「相談できる先生」：否定的な回答があることを真摯に受け止め、対応していく。</p>	<p>第1回 令和4年7月11日（月）</p> <p><主な内容></p> <p>・委員紹介、事務局紹介</p> <p>・報告：意見書の提出について、R3/R4学校経営計画、R4授業時間割・教育課程について、卒業生の進路状況、教科書について、「むらのSmile & Musicプロジェクト」実施報告、土曜参観アンケート集計結果</p> <p><主な意見></p> <p>・就職後の定着を重視すると継続的な支援の必要性を強く感じる。</p> <p>・94%の就労定着率は素晴らしいが、同じ職場で働き続けることがすべてではない。</p> <p>・進路状況の数字だけでなく、内容を把握されていることが素晴らしいと感じる。</p> <p>・就職したての頃とその後数年を経た時点では、子どもたちが抱える課題の質も変化する。心の成長に応じた支援が必要と感じる。</p> <p>・障害者就業・生活支援センターで支援学校6校を担当しているが、むらの高等支援学校の成果は群を抜いていると感じる。</p> <p>・卒業生がSOSを発信できる場の設定が大切。現在むらので年1回取り組まれている、卒業生を講師に招いての進路学習は、3ヶ月に1回の割合でも良いと感じる。働く卒業生自身にとっても誇り（働き甲斐）となると感じる。</p>

府立むらの高等支援学校

【本校保護者】

- ・「増」：0、「減」：0
- ・全体的に肯定率は高い。本校の教育活動へのご理解をいただいていると考える。
- ・肯定率下位の項目や、否定的な回答がある項目については、改善を図っていく。

【共生推進教室生徒】

- ・回答の母数が少ない（15件）ので、変動幅が大きくなっているが、肯定率の低い項目を中心に、改善に向けた取組みを進めていく。
- ・「増」：1
No.11『『むらの』では地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかを分かりやすく知らされている』：86.7% +20.0ポイント
→ 共生推進生の本校登校日に避難訓練を設定したためだと考えられる。
- ・「減」：6
No.1「火曜日に『むらの』へ行くのが楽しい」：46.7% ▼20.0ポイント
→ 本校への登校は週に1日だけなので、楽しいと思えない生徒がいるのではないかと。また障がい受容ができておらず、本校への登校を受け入れられず、苦痛に感じている生徒がいると考えられる。
No.2『『むらの』の行事は楽しい』：60.0% ▼40.0ポイント
→ 学年によっては、まだ校外学習に参加していない時期に回答したのが影響していると考えられる。
No.3『『むらの』では、将来の進路や生き方について考える時間がある』：53.3% ▼33.3ポイント
→ 本校（むらの）での時間的な制約のため、じっくりと考えたり、学んだりする機会が少ないことが主な要因だと考えられる。
No.4『『むらの』の先生は、自分のことをよく理解してくれている』：73.3% ▼13.3ポイント
→ 朝や帰りのSHRで、十分な時間をとって対応するのが難しいためだと考えられる。
No.6「学校生活について『むらの』の先生の指導は理解できる」：73.3% ▼13.3ポイント
→ 本校と設置校では、異なるルールに基づいて指導される場合があり、生徒にとっては理解するのが難しい場合があると考えられる。
No.9『『むらの』では、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある』：66.7% ▼20.0ポイント
→ アンケートを実施した時期が、学習する前であったためだと考えられる。来年度は実施時期や内容について検討する。
- ・肯定率70%以下の項目
No.1「火曜日に『むらの』へ行くのが楽しい」：46.7%
No.2『『むらの』の行事は楽しい』：60.0%
No.3『『むらの』では、将来の進路や生き方について考える時間がある』：53.3%
No.9『『むらの』では、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある』：66.7%

【共生推進教室保護者】

- ・回答の母数は少ない（15件）が、回答率は100%であった（昨年は33.3%）。全体的な肯定率の上昇に向けて取組みを進めていく。
- ・「減」：4
No.3「子どもは『むらの』の授業がわかりやすく楽しいと言っている」：66.7% ▼33.3ポイント
→ 実習前の事前学習等の取組みが十分でなかったためではないかと考えられる。
No.5『『むらの』は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる』：73.3% ▼26.7ポイント
→ いじめの相談は、本年度は受けていないので、学校の対応について判断が難しいのではないかと考えられる。
No.7『『むらの』は子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を養おうとしている』：86.7% ▼13.3ポイント
→ アンケートを実施した時期が、学習する前であったためだと考えられる。
No.8『『むらの』の授業参観や学校行事に参加したことがある』：60.0% ▼40.0ポイント
→ アンケートを実施した時期が、学校祭を実施する前であったのが一つの要因であると考えられる。7月に実施した授業参観では、来校者は約6割であった。
- ・肯定率70%以下の項目
No.1「子どもは『むらの』へ行くのを楽しみにしている」：66.7%
→ 障がい受容ができていない生徒もおり、本校への登校を楽しんでいる様子や保護者が感じられた結果が表れているのではないかと。
No.3「子どもは『むらの』の授業がわかりやすく楽しいと言っている」：66.7%
No.8『『むらの』の授業参観や学校行事に参加したことがある』：60.0%

【本校教員】

- ・全体的に肯定率は高い。来年度以降もこの水準を維持しつつ、昨年度よりも肯定率が下がった項目については改善するように努めていく。
- 「増」：1
No.8「教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成において、教務部を中心とする現行の体制は役立っている」：92.5% +18.2ポイント
→ 個々の生徒の実態を的確に把握したうえで計画を適切に作成できていることや、作成の手順が全体で共有できていることが実感できているためであると考えられる。
- ・「減」：1
No.3「私は、主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」：90.0% ▼10.0ポイント
→ 授業観察においては、全教員が「主体的・対話的で深い学び」をめざして授業を行うことを理解していることが感じられたが、「深い学び」の実現に苦慮している面があると考えられる。

- ・PTAの会合で得た情報では、ほとんどの保護者は子どもの就職をゴールだと考えている。自身もかつてはそうだったが、現在は、就職はスタートだと考えている。
- ・知的障がいのある生徒の高等学校への進学については課題もあり手放しで奨励できない。高等支援学校が存在感を示す必要を感じる。

第2回

令和4年10月24日（月）

＜主な内容＞

- ・報告：授業参観アンケート集計結果、R4学校経営計画進捗状況、R4学校教育自己診断について

＜主な意見＞

- ・オンラインでのアンケートなども増えているが、ICT機器の操作が難しいと感じている保護者もいるので、対応を考えてほしい。
- ・障がいのある生徒の進路先の選択肢が増えているので、中学校での進路指導をしてもらうために、本校の取り組みを中学校の教員にもしっかり理解してもらいたい。
- ・子どもを入学させる前は、「むらのは厳しい」というイメージがあった。今は、就労のために必要な学びであると理解できている。
- ・学校や事業所だけでは、定着率を維持するのは難しい段階にきている。雇用者数が増えていく中、企業側が変化していくことが大切。
- ・本人の希望で、仕事に就いたかどうかはとても大切である。プライベートと仕事のどちらが崩れても影響が大きいので、在学中に将来のための学びが必要。
- ・タブレットを使って学んでいる様子を見学した。社会で役立つ学びばかりであった。また、体育では体力づくりをしていて、皆、体力があるなど感じた。
- ・将来の夢や、希望を描くためにも、「就職したらどうしたいのか」「働いたらどうしたいのか」をイメージできるようにする必要がある。
- ・子どもの成長、親の高齢化が必然的に起こる。困ったときの保護者支援をはじめ、トータルな支援が必要。

第3回

令和5年1月23日（月）

＜主な内容＞

- ・報告：令和4年度学校教育自己診断結果、公開授業週間アンケート集計結果、後期授業参観週間アンケート集計結果、令和4年度学校経営計画評価案
- ・協議：令和5年度学校経営計画（案）

【協議】

令和5年度 学校経営計画「めざす学校像」及び「中期的目標」 → 6名の委員全員が承認

＜主な意見＞

- ・「実習や雇用先の職場マッチング」、「関係機関との連携をより密にする」ことは、大変重要で、良い方向に向かっている。
- ・より具体的に、非常に分かりやすい表記になった。
- ・公開授業などを通じて学校の取り組みを中学校等へも発信していく新しい項目が取り上げられているのも大変良いことだと思う。
- ・むらの場合、教員が少数なので、どうしても進路指導やアフター支援などを担当する先生方などに負担がかかってしまうことを危惧している。子どもだけでなく、教員同士でも相談できる関係づくりも必要になってくるのではないかと。
- ・府立支援学校では病休休暇も多くなっているため、教員の健康状態のことも含めて、学校経営計画に基づいた実践を進めてほしい。
- ・公開授業の案内対象を広げたと報告があったが、高等学校の参加ケースはあったか？
→ 北河内の府立学校には案内を出したが、今年度の参加校は無かった。
- ・共生の生徒のケースをむらのの教員が共有（情報交換）することはあるか？
→ 本校へ登校する日には、リーディング・スタッフが窓口となり共生担当と情報交換を行っている。
- ・高校で生活する生徒が週一回、就労をめざした作業実習の授業が多いむらのに来れば、戸惑うのは当然ではないかと思う。生徒だけでなく、保護者も本校へのスクーリングの意味を理解しきれていないのではないかと。
- ・むらの周辺地域の開発も進む中、地域の特色を生かす学習や行事など、今後、さらに新しい取り組みも出てくると考えられる。
- ・いつも運営協議会で出された意見や課題に、すぐに取り組んで対応されているが、10年後のむらのを視野に入れた計画を考えていくことも大切であると思う。
- ・就労後、躰いた時にどう相談し、立ち直っていくのか。そのためには在学中に何を学ばよいか。むらの高等支援学校の教育活動の活性化に向けて、より進めてもらえればと思う。

府立むらの高等支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価<※学校教育自己診断は、【生】:生徒向け、【保】:保護者向け、【教】:教職員向け>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
<p>1 生徒本人を中心に据えた「支援と指導・相談」体制の整備と、安全安心で活力あふれる学校づくり</p>	<p>(1) チームによる生徒の実態把握と効果的な支援の実施</p>	<p>(1) ・学年団および授業担当者が、生徒の実態を共有し、目標設定や指導に活かす。</p>	<p>(1) ・4月当初に全体研修「生徒の実態と事故防止について」を開催して教員全体で共有する。また前期と後期に「事例検討会」を開催し、生徒の状況確認と対応方法を共有する。</p>	<p>(1) ・全体研修「生徒の実態と事故防止について」を開催した(4月)。また、「事例検討会」という名称での会議は設定しなかったが、職員朝礼等を通じて日常的に生徒の状況確認と対応方法を教員全体で共有した。個別には校内ケース会議を開催した【O】</p>
	<p>(2) 生徒のチャレンジ心、自己肯定感、達成感の向上</p>	<p>(2) ・各担当者が、個別の教育支援計画・指導計画を意識し、支援方法を工夫して、生徒に目標を明確に示す。</p>	<p>(1) ・【教】No.2 「生徒の特性や実態をふまえ、教員間で授業の内容や方法等について情報交換や検討する機会を持っている」 肯定率：94% [91%]</p> <p>(2) ・生徒が自身の長所や課題、目標の到達度合を確認して自己理解を深めるため、年3回「ハニカム面談」を実施する。</p>	<p>・肯定的評価 88% (▼3 pt) 【O】 ※会議等の機会設定は行っていないが、日常的に情報交換をしている。比較的高い肯定率であるが、さらに向上するように工夫をしていく。</p>
	<p>(3) 生徒が相談しやすい環境の整備</p>	<p>(3) ・生徒からの相談を待つのではなく、積極的な関わりを持つよう全教職員が意識し、SSW や関係機関と連携しながら、生徒個々に応じた相談体制を整備する。</p>	<p>(2) ・【保】No.4 「学校は、子どもの障がいについて、よく理解している」 肯定率：95% [92%]</p> <p>(3) ・生徒事案は常に全体で共有し、どのような場面で生じやすいかなどの情報を適宜アップデートする。</p>	<p>(2) ・年3回の「ハニカム面談(個別の教育支援計画の内容を確認)」を計画通りに実施した。【O】</p> <p>・肯定的評価 73% (▼5 pt) 【△】 ※生徒は、自分自身の目標は分かっているが、「個別の教育支援計画・指導計画」と結びついていないことが考えられる。面談時などの機会を通じて、確認をしていく。</p>
	<p>(4) 生徒の安全・安心をしっかりと守れる体制の構築</p>	<p>(4) ・生徒自らが主体的に行動し、安全を確保する態度を育成するため、予告なし避難訓練をはじめ、各種訓練を計画的に実施する。</p>	<p>(3) ・いじめアンケートに記載された内容について初期段階でのヒアリングが確実に実施される。</p> <p>・【生】No.1 「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」 肯定率：85% [78%]</p>	<p>(3) ・生徒事案は、職員朝礼で常に教員全体で共有し、アップデートした。【O】</p> <p>・いじめアンケートでは1件の提出があったが、ヒアリングを実施し、対応を完了した。【O】</p>
	<p>(5) 人権を尊重した教育の推進</p>	<p>(5) ・重大ないじめ事案を発生させないよう、教職員を対象とした人権研修を実施する。</p>	<p>(4) ・各種訓練を実施する。 予告なし避難訓練：4回 火災訓練、防災学習、防犯学習：各1回</p> <p>・【生】No.11 「地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかを学べた」 肯定率：98% [96%]</p>	<p>・肯定的評価 78% (▼6 pt) 【△】 ※下記の教員アンケートNo.5の結果と合わせると、生徒との日常的なコミュニケーションは取れていると考えるが、相談内容によっては、教員への相談をためらった生徒がいることが推測できる。生徒との信頼関係をさらに強めていきたい。</p>

府立むらの高等支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 就労を通じた社会的自立をめざす「生きる力」の育成</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり</p> <p>(2) 「MURANO キャリアプラン」に基づく、教科がつながるシラバスの推進</p> <p>(3) 個別の指導計画の作成システム構築</p> <p>(4) 生徒の企業就労支援</p> <p>(5) 就労率・定着率の向上</p>	<p>(1) ICT 推進委員会を立ち上げる。</p> <p>・コンテンツの共有化や研究授業・事例研究などにより、ICT 機器をさらに活用した授業づくりを行う。</p> <p>・より多様なオンライン学習支援を実施する。</p> <p>(2) 「MURANO キャリアプラン」と現在の社会状況との整合性を確認するとともに、校内外での理解が深まるよう、内容や表現をアップデートする。</p> <p>(3) 教員の現行の体制への信頼度を向上するために、システムエラーを改善し、安定的に運用する。また、効率的に業務を進めるため、個別の指導計画の作成スケジュールを見直す。</p> <p>(4) 企業から講師を招いての研修や、企業訪問の機会を増やすなど、教員と企業との接点を増やすことにより、教員のキャリア教育・就労支援に関する実践力を強化する。</p> <p>(5) マッチング機会を増やすため、実習・雇用先の開拓・確保に積極的に取り組む。</p> <p>・卒業生進路先へのアフター訪問を継続的に実施して定着支援を行う。</p>	<p>(1) 委員会を月に1回開催し、ICT 活用に関する課題解決に取り組む。</p> <p>・教員向けに、ICT 活用に関するヒントや便利な機能などの情報を月に1回以上「ICT ニュース」として提供する。</p> <p>・外部講師による、アプリの具体的な活用方法などの研修を2回以上実施する。</p> <p>・【教】No.3 「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」 肯定率：100%を維持する [100%]</p> <p>(2) 教科がつながるシラバスの理解が深まるような「MURANO キャリアプラン」の新しい概念図を年度末までに作成する。</p> <p>(3) 〔教〕No.9 「教科の個別の指導計画の目標・手立て・評価の作成において、現行の体制は役立っている」 肯定率：84% [74%]</p> <p>(4) 企業就労した卒業生による講演会を実施する。</p> <p>・【教】No.4 「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」 肯定率：94% [91%]</p> <p>・【生】No.4 「先生は、将来の進路や職業について自分にあったアドバイスをくれる」 肯定率：92% [89%]</p> <p>(5) 新規実習受入先及び雇用先：40社以上 [40社]</p> <p>・卒業1年後の職場定着率94%以上を維持する。 [94%]</p>	<p>(1) ICT 推進委員会を立ち上げ、月1回開催し、課題に対応した。 [O]</p> <p>・「ICT ニュース」という形態はとらなかったが、ICT 活用に関する情報を月平均2通、発出した。 [O]</p> <p>・外部講師による研修を1回、校内講師による活用講座を15回実施した。 [O]</p> <p>・肯定的評価 90% (▼10 pt) [△] ※「深い学び」の実現のための試行錯誤があると考えられる。事例検討などで情報共有を進める。</p> <p>(2) 新しい概念図を作成した。 [O] ※来年度において、将来的な本校の方向性を検討するので、その際に改めて検討する。</p> <p>(3) 肯定的評価 93% (+19 pt) [◎] ※作成システムの改善により信頼度が向上した。また作成の手順が全体で共有できていることが実感できた結果であると考ええる。</p> <p>(4) 9月に卒業生による講演会を実施した。 [O]</p> <p>・肯定的評価 100% (+9 pt) [◎] ※生徒や保護者と円滑なコミュニケーションをとり、生徒を中心にいた進路指導ができた結果であると考ええる。</p> <p>・肯定的評価 97% (+8 pt) [◎] ※上記と同様、生徒を中心にいた進路指導ができた結果であると考ええる。</p> <p>(5) 新規実習受入先+新規雇用先：49 (福祉事業所7を含む) [O]</p> <p>・卒業1年後の定着率：100% [◎] ※アフター訪問の効果であると考ええる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 魅力ある取組みの充実による共生社会づくりへの参画と情報発信</p>	<p>(2) 地域等との交流・連携強化と、生徒が活躍できる機会の創出</p> <p>(3) 本校の取組みや魅力が鮮明を伝える積極的な広報</p>	<p>(2) 地域と連携した楽器指導支援プログラムにより、生徒が継続的に演奏指導を受ける。</p> <p>・学校経営推進費事業 (R3 「むらの『Smile & Music』プロジェクト」) を計画通り実施する。</p> <p>・枚方市をはじめとして、地域との連携を強め、生徒が社会の一員として活躍できる機会の確保をする。</p> <p>(3) ホームページやブログを効果的に活用し、タイムリーに情報発信をする。</p> <p>・学校案内動画を改訂しオープンスクールや学校見学会などでの情報提供手段として活用する。</p> <p>・学校や生徒への理解をより深めていただけるよう、オープンスクールや学校見学会の内容を精査する。</p>	<p>(2) 1年間継続して演奏指導を受け、校内演奏会を1回以上実施し、校外演奏会に1回以上出演する。</p> <p>・各専門教科において新商品を演奏会場で販売する。</p> <p>・「自己肯定感」、「達成感」、「就労意識」などの項目を設定した生徒アンケートを実施する。 各項目肯定率70%以上[新規]</p> <p>・地域連携の新規取組み：2件以上</p> <p>・【生】No.12 「本校には達成感を味わうことができる活動がある(職場実習、オープンスクール、学校祭など)」 肯定率：93% [91%]</p> <p>(3) R4.5月末までに年間情報発信計画を立案し、それに基づいて滞りなく情報を発信する。</p> <p>・【教】No.10 「外部への情報提供手段としてホームページが活用されている」 肯定率：94% [91%]</p> <p>・R4.6月末までに学校案内動画の改訂を完了する。</p> <p>・伝えるべき本校の魅力やメッセージ、情報を精査・検証し、その結果を反映した計画を立案し実施する。</p>	<p>(2) 6月に3年生が校外演奏会に出演した。また、2年生が学校祭(12月)、中間発表会(3月)で成果を発表した。 [O]</p> <p>・校外演奏会や学校祭で販売会を実施し、新商品も販売した。 [O]</p> <p>・自己肯定感：90%、達成感：96% [◎] ※コロナ禍以降では初めての大きな取組みであったことも要因として考えられる。</p> <p>・枚方市との農業連携。本校製品が枚方市のふるさと納税返礼品に採用された。 [O]</p> <p>・肯定的評価 91% (±0) [O] ※上記、「Smile & Music」プロジェクトでの生徒アンケートの達成感が96%であったことも踏まえ、生徒は活動全般を通じて高い達成感を得たと考ええる。</p> <p>(3) 年間情報発信計画を立案し、それに基づきブログ更新をした(更新回数：49回)。</p> <p>・肯定的評価 88% (▲3 pt) [O] 【O】 ※活用はされているが、ホームページは日常生活に溶け込んでおり、特段に意識が向かなかったと考えられる。</p> <p>・改訂を完了し、オープンスクール(OS)等で使用した。 [O] ※来年度はさらに大幅改訂を検討する。</p> <p>・OSの案内対象を中2生にも広げた。また、体験授業数を1人2授業とし、本校の取組みを、より体感していただいた。 [O]</p>

府立むらの高等支援学校

<p>4 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上</p>	<p>(1) 支援教育の専門性向上</p> <p>(3) 業務の精選と働き方改革</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新転任教職員に対して、支援教育ミニ研修会等を実施し、積極的な支援をする。 特別支援学校教諭免許保有率が向上するよう、研修情報などを積極的に提供し、支援する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の活用により、校務を効率化し、教員の負担軽減を図る。 昨年度から、学校教育自己診断の実施方法を、学習支援クラウドサービスを利用した方法に変更したが、保護者アンケートの回収率が低下したため、未回答者への再周知を徹底し、回収率を向上する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者に、生徒指導、進路指導、障がい特性などをテーマとして5講座以上の研修を実施する。 専門学科の学習内容体験会を4回以上実施する。 【教】No.13 「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」 肯定率：69% [63%] 特別支援学校教諭免許保有率 保有率：65% [62%] <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席簿のデジタル化を実運用する。 起案文書や配布文書（保護者向けを含む）のペーパーレス化と電子回覧を進める。 保護者への配布方法等を工夫して未回答者を特定し、再周知を行う。 保護者からの回収率：90% [71%] 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新転任者対象の研修を6講座実施した（生徒指導、進路指導、障がい特性、自立活動、共生推進教室、支援教育）。【○】 専門学科の学習内容体験会を6回実施した。【○】 肯定的評価 73% (+10 pt) 【◎】 ※本年度は初任者が2名いたため（昨年度は0）、校内全体の意識が高まったと考えられるが、さらに肯定率の水準をあげるために取組みを継続する。 特別支援学校教諭免許保有率 保有率：65% 【○】 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月より、出席簿と学校日誌のクラウドストレージ化を開始した。【○】 8月末より職員朝礼レジュメのクラウド化の実運用を開始した。【○】 保護者からの回収率：93% (+22 pt) 【◎】 ※アンケートフォームでの回答後に「回答済連絡票」を提出していただき、未提出者には再周知をした効果が出た。
--------------------------------------	--	--	--	---